

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成26年5月21日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 医学研究科 腫瘍薬物治療学講座

職 名 教授

氏 名 武 藤 学

助成の種類	平成25年度・研究成果公開支援・国際会議開催助成		
事業内容	iPS細胞および幹細胞とがん研究に関する日米ジョイントカンファレンス		
開催期間	平成26年 4月 16日 ~ 平成 26年 4月 18日		
開催場所	京都大学医学部創立百周年記念施設「芝蘭会館」・ウエスティン都ホテル京都		
参加者	総数 141名	内訳 国内参加者 135名 海外参加者 6名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラム)		
会計報告	事業に要した経費総額	1,084,000 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 大学改革推進等補助金(がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン)	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	旅費(招聘旅費)	319,140	319,140
	会場・会議費	480,474	480,474
消耗品費	200,386	200,386	
印刷費	84,000	0	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 国際学会、シンポジウムを開催するにあたり、講師の旅費、会場・会議費や消耗品費の運営費を工面するのが困難な状況でしたが、本助成のおかげで、小規模ながら、大学間交流を深めることができました。特に、企業からの寄付によらない大学間交流を行うことは、最新情報の発表の場を提供できることに加え、利害関係や利益相反などを考慮せず、真にアカデミアの交流ができますので、非常にありがたい助成と考えております。また、事業計画変更承認にて申請致しました、支出予定内訳と、会計報告の経費内訳の大幅な変更について、ご報告致します。変更申請では、謝金を計上しておりましたが、外国人講演者の方から、謝金は不要との連絡を受けたため、財団からの充当額がなくなりましたが、今回、プログラム、芳名録、ネームカード・プレート等の印刷にかかる、トナーカートリッジや印刷用紙が発生したため、消耗品費として充当させて頂きました。		

## 成果の概要/武藤 学

このたび、京都大学教育研究振興財団の助成を受けて、京都大学芝蘭会館に於きまして平成 26 年 4 月 16 日～18 日の日程で、京都大学、慶応大学、米国テキサス大学 MD Anderson Cancer Center による合同シンポジウム「iPS and stem cells in cancer research」と、MD Anderson Cancer Center との姉妹機関交流会議を開催いたしました。

MD Anderson Cancer Center は、世界をリードするがん専門施設のひとつですが、世界中のがん研究施設と姉妹機関協定を結び学術的交流をしています。わが国においては、本学が唯一の姉妹機関で、慶応大学も関連施設となっています。本学からは、これまでも多くのポスドクやスタッフが MD Anderson Cancer Center に留学していますが、2009 年に正式に第一期（5 年間）の姉妹機関協定を締結し、第二期(2014 年～2018 年)の協定更新として平成 26 年 4 月 17 日午前に、湊医学研究科長と Dr. Oliver Bogler (Senior Vice President, Academic Affairs, MD Anderson Cancer Center)による調印式もとり行いました(図 1、2)。また、MD Anderson Cancer Center と姉妹機関が一年ごとに持ち回りで Global Academic Program (GAP) conference を開催しています。本学としては、この GAP conference とは別に、MD Anderson Cancer Center とより深く交流するため、最新の研究テーマを取り上げた定期的な学術交流を昨年より京都で開催しています。今回の助成においては、合同シンポジウム開催と、今後の連携に関する会議のために活用させていただきました。



図 1：調印式の様子

左から：三嶋理晃病院長 / 湊 長博医学研究科長 / Oliver Bogler, Senior Vice President



図 2：写真撮影（両機関の関係者）

平成 26 年 4 月 17 日に開催された国際シンポジウム「iPS and stem cells in cancer research」においては、各施設から最新の研究成果発表と活発な議論がなされました。本学からは、iPS 細胞研究所の山田泰広教授、金子 新准教授、消化器内科の妹尾浩講師、慶応大学からは、佐谷秀行教授、岡田洋平准教授、MD Anderson Cancer Center からは、Sadhan Majumder 教授、Jian Hu 准教授、Dean Tang 教授と、世界の一線で活躍する研究者が講演しました（プログラム参照）。また、本シンポジウムは、京都大学のがんプロフェッショナル養成基盤整備事業も協賛したため、がんプロ大学院生を含め 141 名（がんプロ 50 名、それ以外 91 名）の参加者がありました(図 3)。がん研究における iPS 細胞の利活用は、まだ解決すべき課題が多いですが、着実にその成果があがっていることが示されました。また、Cancer stem cell の研究も、消化管がん、前立腺がんにおいて治療標的に繋がる成果も発表され、今後の研究の進展が期待されるものでした。

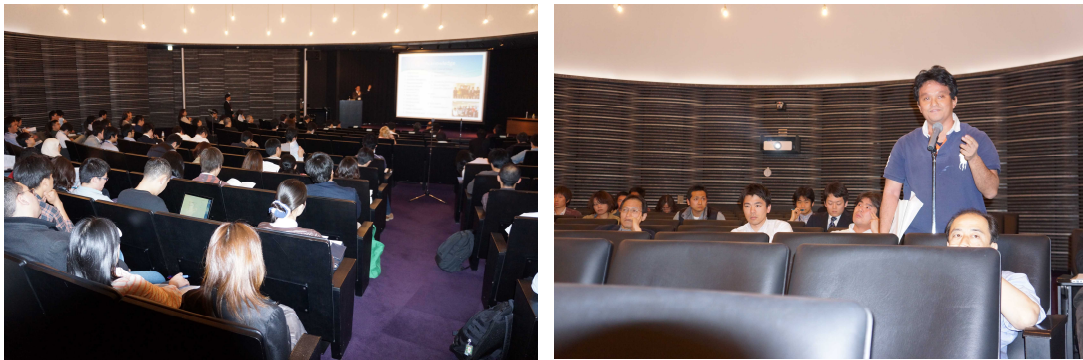


図 3 : シンポジウムの様子

4 月 16 日および 18 日に開催された本学と MD Anderson Cancer Center の会議では、今後の姉妹機関の連携における様々な学術的交流をより活性化させることで合意しました。

本シンポジウムを通して、京都大学、慶応大学、MD Anderson Cancer Center の 3 機関における研究テーマとアクティビティーの一部が共有できましたので、今後、人事交流も含め、様々なプロジェクトが進行することが期待されます。さらに、このシンポジウム直後の 5 月 1～3 日には、韓国ソウルのヨンセイ大学で MD Anderson Cancer Center 姉妹機関の GAP conference 2014 が開催されましたが、本研究助成の申請者である武藤が Director's meeting に参加し、姉妹機関の director と交流を行いました。さらに GAP conference 2014 には、本学からも医師 6 名、看護師 5 名、薬剤師 2 名が参加し学術発表をするとともに、各国の姉妹機関の研究者との交流ができました。これも、本研究助成によって、京都で MD Anderson Cancer Center との交流を深めることができた成果であり、今後は、医師のみならずメディカルスタッフも global な交流と活躍の場を提供できると期待しています。